

鳥取県産業廃棄物処理施設審査専門委員会（第 1 回）の質疑概要

委員名	No	質問内容	申請者回答
遠藤委員	①	※会議に先立ち事前提出された確認事項を資料として提示	遠藤委員からの確認事項については、追ってペーパーで回答するが、できる範囲でこの場でコメントする
	②	受入れ品目により吸水人孔（＝集水ピット）でのカルシウムスケール形成で、設計時の排水能力を満足しなくなる可能性も考えられるが、設計上考慮しているか。	集水ピットはスケールが発生した場合でもメンテナンス可能と考えているが、委員の指摘の趣旨を確認して回答したい。
	③	ゲリラ豪雨に対する対策の具体的な数値・計算を示していただきたい。例えば原水槽（＝浸出水調整槽）の容量設計など。	浸出水調整槽は、過去 45 年の気象データから設計しており、雨水排水は 50 年に 1 度の確率雨量用いて設計している。また、平成 25 年 7 月に 1 時間当たりで多くの雨があったが、その時雨量データを解析して内部貯留が発生しないことなども確認している。 【事務局補足】 上述の「平成 25 年 7 月の雨量データによる解析」は、問いに対し妥当な回答でなかったため、訂正し、取り下げる旨を事業者から聞き取っている。
	④	周辺の地下水位の状況は？また季節変動の情報はあるか。	生活環境影響調査で想定の地下水位を示しており、これを踏まえて掘削底面等を踏まえて地下水影響を考えている。 季節変動については、県地下水等調査会でこの地域における 1 年の連続データからダイナミックな季節変動はないとのコメントがあったと記憶している。
	⑤	ペントナイト混合土を 2 重シートの下ではなく間に入れたのはなぜか？ペントナイト混合土の動的締固めによるシートへの負荷は、どのように考えているか。	重機等の誤作動により 2 枚のシートが同時に破れないようシートとシートの間の緩衝材とすること、万一何かの理由で上部の遮水シートが破れた場合に対策のための時間的猶予がとれることの 2 つの理由から 2 重シートの間とした。 なお、施工の困難さは承知しており、小さな重機を使って、小規模に手間をかけて施工していくことを考えている。
	⑥	地下水モニタリングで漏えいが疑われる場合に、地下水の排水先を浸出水処理施設に切り替える等の対応は考えているか。	集水ピットで地下水の pH、電気伝導度を連続測定しており、異常があれば、地下水を浸出水として処理する対策を考えている。
	⑦	放流水の上乗せ基準は、順守義務があるものとして設定したものか、単なる努力目標値として設定したものか。順守義務があるものとして設定している場合、上乗せ基準によって廃止が困難となる場合も考えられるが、搬入管理や埋立方法などで、どのような取組を考えているか。	順守すべき基準として考えている。現時点で埋立廃棄物の量・性状、浸出水の水質が不確定な部分もあり、特別な手段は考えていないが、稼働後の水質の状況などを確認して対策を考えていきたい。
	⑧	第三セクターとして、県内の他の民間処分場のお手本となるような維持管理等の目標はあるか。	特徴的なものとして 3 点。①周辺自治会の代表者らが参加する安全監視委員会を設置し、事業運営の情報提示・透明性を確保すること、②受入れ時点の放射線検査や蛍光エックス線検査、③RO という非常に高度な水処理をすること。
	⑨	地盤改良は重要で有意義と考えられるが、どの程度の改善効果が見込まれるか。地盤改良工事の詳細と併せてお示しいただきたい。 また、隣接する一廃処分場の沈下情報等はあるか。一廃施設の沈下の影響は受けないと考えてよいのか。	地盤改良については、申請概要の説明で触れたとおり。 一廃処分場については、沈下量が測定されており、データとしては 1.4cm 未満で大きく沈下する状況にはないが、追加の測定をしながら実際に工事を進めていくことを考えている。
山田座長	①	施設の構造と維持管理は一体化されて処分場の健全性が保たれていくことになる。そのあたりをもう少し聞きたかった。（コメント）	－
	②	処分場内の水位を低く保つことは維持管理の基本で、そのためには水を入れないか、早く出すか。水を入れない考え方の説明はあったが、排水の考え方について、集排水管がどこに	配管は県の指針に基づいて、一般的なやりかたを設定した。管の太さは、発生する浸出水量等を考えて、管の中心から下側 120° の円弧部分の範囲で集水できるような太さを設定している。

委員名	No	質問内容	申請者回答
		あって、どれくらいの大きさで、どういう設計思想でその大きさにしたのかなどを伺いたい。	
	③	(回答を受けて) このあたりについてはもう少し詳しく聞きたいと思う。	—
乾委員	①	山田座長の質問とも関連するが、遠藤委員のカルシウムスケールの指摘は、廃棄物層の中の排水性が悪くなることを気にしているのではないかと思うので検討いただければ。(コメント)	—
	②	地形的に谷筋なので、ある程度地下水はあるように思う。それにより揚圧力がかかったり、逆に粘性土層によって地下水が集まりにくかったりということが考えられるが、地下水集排水管の配置はうまく集まるよう考慮して設計していると理解してよいか。	基準どおりの形で配置して、水が集まるように考えている。
	③	期別埋立で施工手順が複雑だと思うが、浸出水集排水管、底部遮水、Ⅰ期とⅡ期の配管は最初に同時に設けるのか。あるいはそれぞれの期ごとの施工時点で別々で設けるのか。	地下水管は期別に設けることを考えている。
	④	土えん堤を積み上げて施工されると思うが、浸出水がⅡ期側に行かないように、土えん堤にもシートが入ると理解してよいか。	はい。浸出水についても、Ⅰ期とⅡ期別々に施工する計画としている。
小野委員	①	土えん堤など、土構造の場合、地震対策で一番重要なことは水を抜く・入れないこと、下地地盤をしっかり作ること。今回の土構造部分は水は入りにくい構造になっている、地下水が入ってくることもないと思ってよいか。	均一型土えん堤の貯留構造物はのり面に遮水工を設けるため、水が入ってくることはない。 地盤改良により、基礎地盤の強化も図っており、対策は万全を期していると考えている。
	②	地震で、多少の地盤の変形も起こると思うが、集排水管や遮水シートは、ある程度の地盤の変形には対応可能と考えているか。	管はフレキシブル継ぎ手により地盤の動きに追従可能と考えている。遮水シートもある程度の伸縮性があり、地震によって破れることはないと考えている。
島田委員	①	搬入希望者のアンケート調査から計画廃棄物の割合を想定し、計画水質を設定しており、水質設定には腐敗性廃棄物の割合(6%)も踏まえて水質を決められていると思う。「腐敗性廃棄物の混入割合の制限は規定していないが、腐敗性廃棄物は可能な限り少量化とし、短期間であっても40%以上にならないよう搬入管理を図っていく」と記載されているが、この割合の管理をどの程度の強さでコントロールしようとしているのか。	埋立に際して、腐敗性の廃棄物を1か所に埋め立てるのではなく、他の有機無機性の廃棄物と混ぜながら一定の割合以下で埋め立てる。腐敗性の廃棄物が、仮に多く入ってきた場合でも、埋立管理において集中しないよう対応する。
	②	(回答を受けて) 搬入については制限せずに受け入れたうえで、センター側で対処するということか。	ご指摘の通り。
ラン委員	①	騒音・振動の基準は今後より厳しくなっていく可能性があるが、変わった場合に、どのような対策が考えられるか。	例えば、水処理施設については、防音壁を一枚増設する、重機であれば低騒音型の機械の導入や、作業中の重機をさらに囲うことなどが考えられる。
	②	音は夜間によく届く。調査範囲外まで届く可能性もあるが、何か対策はあるか	埋立作業は夜間には動かないため、夜間に影響するのは水処理施設となる。現時点では基準をクリアすると見込むが、稼働後に実際に測定を行い、さらに削減が必要であれば、防音壁を増設するなどの対応を行う
	③	計画地に防音壁は計画されているのか?	防音壁を設置したうえでの予測となっている。
中田委員	①	大気質はそれほど大きく影響はないように思ったが、維持管理の中で大気質のモニタリング等は計画されていないという理解でよいか。	住民との約束の中で、稼働中に生活環境影響調査で行った評価が、実際にはどうなのかを追加調査する約束をしている。周辺環境モニタリングとして、降下ばいじんを測定することを考えている。
深田委員	①	会計関係は根拠資料がないので、今後、そのあたりを質問等させていただきたい。	—